

Title	IDUN IV を出すにあたって
Author(s)	岡田, 令子
Citation	IDUN. 1978, 4
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/95883">https://hdl.handle.net/11094/95883</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## IDUN IV を出すにあたって

デンマーク語科誌 IDUN の誕生をみてから、はやくも 5 年目の秋を迎えました。昨年以來各方面から 3 号以後が欠落しているから送付するようにとの御依頼をいただいております。しかし、毎年の発行は財政的にもゆるされず、せめて隔年ごとに、と及ばずながら励んできました結果、ここに第 4 号をお届けできますことを一同大へんよろこんでおりますとともに、みなさまの IDUN への御関心と御支持を感謝しています。

先日、来日したデンマークの知人は、成立したばかりの自国の新連立内閣についてのニュースを聞かせてくれたあと、赤字になやむデンマーク経済の話をしていたのですが、それでも、当語学科ではデンマーク文部省のあたたかい御配慮によって、目下刊行中の百科辞典（全 10 巻）やポリテクニク社の『デンマーク史』の新版など貴重な研究資料を定期的に寄贈していただいています。この紙面を借りて御礼をのべたいと存じます。

ところで、本学恒例の語科懇談会には大勢の学生が参加し、15 名（うち女子 6 名）の新入生も半年たった今、すっかり当学科になじんできたようです。その中に一人、他校でドイツ語を専攻した学士入学者がおります。上級生の中には自費でデンマークへ留学した者も二、三名あり、また来年度には、初めて大阪のロータリ・クラブの奨学金でオーフス大学への留学が許されるなど、じかにデンマークに接するという恵まれた機会が与えられる学生が増加する傾向にあるのはうれしいことです。企業関係からも、デンマーク語のできる人を、との要請もあり、卒業生の社会での活躍がますます期待されます。

その他、来年夏休みあけの本学の移転をひかえて、研究室でもこれからの仕事の計画をねったり、その夢をふくらませたりしています。

今回この IDUN IV に掲載しました論文は、先ずデンマーク母音に関するもの——過去二回にふれられなかった部分——、次にホ・セ・アナセンとカーレン・ブリクセンの文体比較考察、それに口承性の強い文学——中世サガ——中に現れた“サガ的”年齢と現実の年齢との関係などで、わたしたちの日頃の研究の成果の一端を発表いたしました。なお、デンマーク語による一編を加え、これを南ユラン出身の客員教授が、故郷の国境周辺の歴史についてまとめています。不十分な点も多々あるかと存じますが、これまでと同様にみなさまの卒直な御意見や御批評などいただければ、これにまさる幸せはございません。

1978年11月

大阪外国語大学デンマーク語学科

主任 岡 田 令 子